



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第22回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 ベースコーチのナイスプレイ

攻守交代時、勢いよくベンチを飛び出したベースコーチが、ボックス付近から自チームの次打者に向かって、早くネクストバッターズサークルに入るよう声をかけていました。



大会の申し合わせ事項として、「攻守交代時、先頭打者および次打者とベースコーチはミーティングに参加せず速やかに所定の位置につく」ことが確認されています。守備側の準備も整い、プレイ再開に備えて次打者をネクストバッターズサークルへと促したのでしょう。**スコアブックに記されないナイス・プレイです。**

規則3・17及び4・05(b)に規定どおり、一・三塁のベースコーチはグラウンドに立つことを特別に許されています。打球の状況や守備位置などを把握して、走塁に的確なアドバイスを伝えるのももちろん、出塁後の自打球ガードの撤収や、冷却用のスプレーをポケットに準備して緊急に備える…など任務は少なくありません。プロ野球のようにサインを出したり中継することはないでしょうが、大切な役割です。特別に許されたグラウンドで「重要な二人」を認識しましょう。



ルール編 9回裏・二死満塁での決勝点

同点で迎えた9回裏二死満塁、打者は四球で出塁し三塁走者は本塁を踏んでいます。サヨナラのゲームセットと判断した二塁走者は三塁の手前から整列に向かいました。守備側は二塁走者の走塁放棄をアピールしましたが審判員はこれを認めず試合終了となりました。どうしてですか?

規則 4・09(b)【注】には次のように明記されています。

「たとえば、最終回の裏、満塁で、打者が四球を得たので決勝点が記録されるような場合、次塁に進んで触れる義務を負うのは三塁走者と打者走者だけである。」

上記のケースでは、進塁義務を負った三塁走者と打者走者が正しく次塁に進んでいるので、**二塁走者に対する走塁放棄のアピールは受け付けられません**。なお、打者走者が一塁へ向かわずに整列してしまった場合を[第12回]で取り上げています(→同じ規則の後段を参照)。また、満塁で決勝打によるサヨナラのケースでは全てに進塁義務がありませんので混同しないでください。

関連で、走者の走塁放棄を規定する条文を紹介します。

規則 7・08(a)(2)に、「一塁に触れてすでに走者となったプレーヤーが、ベースラインから離れ、次の塁に進もうとする意志を明らかに放棄した場合。

【原注】一塁に触れてすでに走者となったプレーヤーが、もはやプレイは続けられていないと思い込んで、ベースラインを離れてダッグアウトか守備位置に向かったとき、審判員がその行為を走塁する意思を放棄したとみなすことができると判断した場合、その走者はアウトを宣告される。(後略)」とあります。

「義務=しなければならないこと」を果たさずアウトになるのは残念です。こんな時こそベースコーチの役割、その力量が問われます。